



編集／東濃厚生病院広報委員会

理念

歩みいる者に
やすらぎを
去り行く人に
幸せを

私たちは地域の皆様に愛され、親しまれ、そして信頼される病院を目指します。

行動目標

1. 私たちは日々研鑽に励み、患者さんの立場にたった質の高い医療の提供に努めます。
2. 全職員が患者さんの窓口となり、真心と笑顔で患者さんに接します。
3. 患者さんの言葉を最後まで聴き、患者さんが理解できるよう分かりやすい言葉で説明します。



年頭の挨拶



JA岐阜厚生連

経営管理委員会会長 上松 忍

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本会事業に格別のご高配を賜り衷心より厚くお礼申し上げます。

平成二十二年の年頭にあたり皆様に一言ご挨拶を申し上げます。

昨年四月にメキシコで端を発した新型インフルエンザは、WHO（世界保健機構）により「世界的大流行（パンデミック）」が宣言され、わが国においても感染者が増加の一途を辿り行政機関並びに医療機関では診療・予防接種等の対応に追われている状況にあります。また、一昨年からの金融危機による景気低迷が続くなか日本経済もいまだ先行きが不透明な状況下にあります。

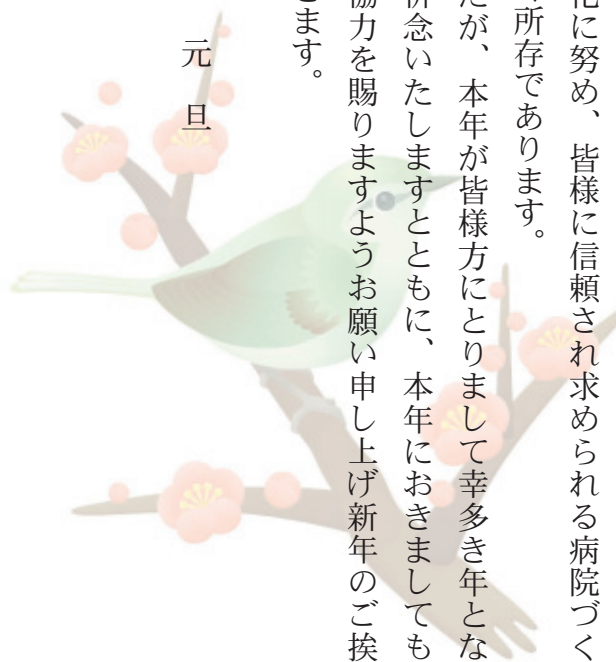
こうしたなか、昨年の衆議院選挙により「医療崩壊を食い止める国民に質の高い医療サービスを提供する」を掲げた民主党を中心とした新政権が発足し、これまでの政策方針も大きく変化した医療現場では明るい兆しが見え始めると考えられていましたが、長引

く景気低迷を背景とした税收の悪化から行財政を取り巻く環境も一段と厳しさを増し、国の事業仕分け作業においても厳しい評価がなされるなど、平成二十二年四月の診療報酬改定や医療関連の予算にも少なからず影響するものと想定され、本会の事業運営も引き続き厳しい環境下におかれると考えられます。

このように医療を取り巻く環境が日々刻々と変化していくなか、病院運営はこれら困難な状況に対応していくことが求められます。本会としては安全で良質な医療を提供していくため施設・設備の整備をはじめ医療従事者の確保と資質向上を引き続き行うことにより、地域医療への貢献を推し進め、併せてコンプライアンス態勢等内部統制の強化に努め、皆様に信頼され求められる病院づくりに取り組んでいく所存であります。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして幸多き年となりますよう心より祈念いたしますとともに、本年におきましても引き続きご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成二十二年 元旦



年頭の御挨拶

院長 平石 孝



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご高配とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は寅年、トラといえば阪神タイガース。映画では「フーテン寅さん」こと泣

く子も笑う渥美清氏。寅とは直接関係ありませんが、真珠湾奇襲成功を伝える淵田美津夫中佐の搭乗機より打電された「トラトラトラ」を思い浮かべる年配の方も居られることでしょう。

相変わらず不況の時代が続き、企業倒産やリストラ、生活苦からの強盗や自殺が三面記事を賑わしました。アメリカでは「チェンジ」、日本では「新」が話題になりましたが、明るい希望の光は見えてきません。新型インフルエンザ騒動や医師、看護師不足に始まって自治体の緊縮予算の影響から病院の廃院、統廃合の暗いニュースが目につきます。近隣の病院も我々と同様に茨の道を歩んでいるようです。本院でも医師不足は相変わらずで、診療に際し、皆様方には多大のご迷惑をおかけしましたことを心からお詫び申し上げます。

昨年度は嘱託ではありますが、内科医師2名に加え待望の研修医が一名赴任しました。努力が少しは報われたように感じており

ます。自民党から民主党に政権が変わっても、先の見えない閉塞感や臨床研修医制度に始まった医療界の混乱はすぐには解決できないでしょう。「将来を思い煩うな、現在を為すべきことを為せ」の格言もあります。情熱を持った優秀な職員が揃っております。職員一丸となつて、これからも若手医師をはじめ医療スタッフの充実と今年七月の病院機能評価受審に向け一步一步尽力して参ります。まずは内科（消化器、循環器科）、整形外科医師の増員、研修医の採用、小児科、婦人科の常勤化が課題と考えております。

病院経営の面では昨年何とか維持できました。これも地域住民の皆様や関係諸機関のお蔭と深く感謝しております。最後になりましたが、本年も皆様のご健康とご多幸をお祈り致しますと共に、ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

